GET YA-YA, EURO A GO GO !!
今一番トンガッてるユーロシーン。

「ユーロパーツ」という言葉に、多くの人は「高級」、「高品質」という印象があるだろう。これは正当な認識で、さらにその中の圧倒的多数は、ユーロハーレーシーンの中核であるドイツが持つ「マイスター制度」と「トゥフ規格」のイメージが非常に大きいと思われる。

マイスター制度とは、商業権（または二次的に商業性を生む）のある、あらゆる職業において国家資格が設けられ、これに合格して「資格」を得るという制度で、この制度のおかげでモノ作りの職人たちは自分のプライドを賭して生産活動を行っている。もちろんカスタム・ビルダーしかりで、そして「トゥフ規格」とは、日本の車両制度を例に挙げれば、行政が定めている制度を、逸脱した場合の罰則は厳常に厳しく、なんと「懲役」されるのである。違反の符号が、ではなく、いきなり前科がついてしまうというわけである。

つまり、マイスター制で「作る人」、トゥフ規格で「作らるモノ」という両方から座をにらみ、違反者には重罰を課すという、信頼性の仕掛けになっているのだ。

重ねて、ハーレー人口を最大に有しているのがドイツだから、ユーロハーレーシーンにおけるドイツという国の位置が、国切る国においてはれほど重要（っていうか、実はめちゃくちゃ庇介かも……）なのかがわかるだろう。

さて、そんなドイツで大ブレイク寸前のビルダーがトーマス・ハーマンである。去年までハードコア・サイクル地方ところのメルフークをはぼ一手に引き受け（つまコレ、実は内緒だって言われたんだけどもでに公然の秘密っぽかったので書いちゃいました。関係者各位には黙っておいて下さいね）、金属加工職人に徹するばかりであまり表舞台に出なかった彼だが、近年、「ハーハーマン・パフォーマンス」を設立するとと、以前より内緒を知っていたメディアが押し寄せ、「乳」に時代の潮流となってしまったのだ。昔から後の元に仕事の依頼が絶えなかった理由、そ、時代の要求となり人気因で、それは彼を動かる「金属加工の神様」というニックネームに表れている。

彼は「実は極弱なウイドライヤ」であるとも言っていた。

「さにかく最終的には手作業なんだ」と言うトーマスは公私にわたってサポートする彼のワイフ、トーマスは心底メロメロにしてい「迫力ある人」

三次元に曲げた極太バーはインナースロットル。インナーブレーキもみるらしい。下はタイヤ型フェンダー。

http://www.habermann-performance.de/

トーマス曰く「波線フォルムは好き。ワイドタイヤは嫌い」。でも「なんでも一所懸命に作るよ」と言ってた。

Nobbi & Minako
本誌Vol.125各舞特集にてお世話になったW&Wドイツ本社で働く2人。ユーロシーン深くより込んだ彼らに、特におもしろいトピックスを切り取ってもらった。来月のVMとCBにはW&Wのペーパーが、CBにはマーカス・ウォルツが来日予定。トーマス&ダニーは「愛媛中」らしい。ちなみにノビー&ミナコは、来年1月に来日予定である。